

## 令和6年度 第3回たかつコミュニティスクール 議事録

■日 時 令和6年11月14日(木) 9時30分～11時30分  
■場 所 神奈川県立高津支援学校  
■出 席 委員8名 事務局9名  
■問合せ先 副校長 埜崎 電話：044-865-4921

### 1 学習発表会(小学部4年生)視察

### 2 学校長あいさつ

学習発表会は昨年度から集合開催している。今日は小4、分教室、高等部の発表。普段の学習をやりながらも、どう活かしていくかということが今日のよう学習発表会につながっている。3日間の日程で行っていて、今日が最終日。

今日は中間報告。後半に向けてやり残しや来年度のことにつながるようなご意見をいただきたい。よろしくお願いします。

### 3 会長あいさつ

学習発表会、できること、よいことを取り上げる形でやってよかった。普段学んだことを発表できることが大切。先生方もどのよう工夫したら発表できるかということも考えることができる。行事は学んだことを活かす場。いろんな場面で活かされるようにしていってほしい。分教室の生徒の受付なども、生かしている。今まで学んだ言葉遣い、紙の扱いなど活かせる。そういう行事が復活していてよい。皆さんに忌憚のないご意見をお願いして、今後につなげていければと思う。

### 4 情報教育の取り組みについて

〈安全管理GL・情報担当より報告〉

### 5 不祥事防止の取り組みについて

〈教頭より報告〉

### 6 協議(●委員 ○事務局より)

●今年一人1台端末の配備ということだったが、県からのガイダンスなどはなかったのか？学校ごとに対応しているのか？制限されていることなどもないか？

○大枠はあるが、細かいところは各学校の運用に任せられている。各学校の情報係で相談しながら進めている。

○教育委員会が学校に物を配備、その先は学校で、ということになってはいる。

●まわりの学校と共有しながら進めるのは有効。小学部の事例について、タブレット端末を使って気持ちを表出する取り組みは良い。気持ちを出すことは大人でも難しいので、小学部段階からやることは大事だと感じた。

●端末に対して子どもがどう向かっているのか？子どもたちが何のためにあるのか？と思っているのか気になっている。

○各家庭でタブレット端末に依存しているところもあり、学校で使用しようとするYouTubeを検索したりする子どもがいる。そこを踏まえて「時間を決める」「使ったら先生に返す」「閲覧するものへの注意」などのルールを決めて取り組んでいる。そのルールを自分で守れるよう指導している。

- 端末の画面に沿って字をなぞるのも内容もよいと思うが、あわせて紙に書くということもできるとよい。
- 児童生徒によってどこを目指すかによるが、ゴールを明確にして対応していきたい。パソコンで入力できるようにするというところに取り組んでいる生徒もいる。
- 端末を投げる生徒はいないのか？
- 細心の注意をして活用している。保護ケースなども使っている。
- 代替手段として、音声で伝えられるようになるのはとても良い。いい方向で進んでいるのでよかったと思う。
- 大学の生徒で支援学級の出身の子がいた。ノートを書く代わりにパソコンで入力しているのだが、それは小学校では許してもらえず、中学校では OK だった。授業に参加できるようになって、大学まで進学できた。いろんな道がある。
- 今はパソコンがあれば、家でも仕事ができる時代になった。いろいろな方向性を持った教育が必要だと思う。
- 先生方はどうしているか？新しい情報をどうやって身につけて、授業に活用できているのか？
- まだ全体で研修は組めていないが、各学部から要望があり、近日中に高等部で研修をする。学部ごとに 2〜3 人ぐらい ICT に強い教員がいるので、その指導を見て他の教員も取り入れたいという流れが実際のところではある。
- 何の研修をするのか？
- クロームブックについては、グーグルミートやクラスルームの機能を使って、生徒がどうアクセスして教員がどうチェックするのか、何を見るのかなどのやり方設定の仕方などを行っている。
- 県全体でアプリを導入して配付という動きはないのか。
- クロームブックについてはない。各端末からストアにあるものは県が承認しているのでダウンロードは OK。
- 今は不祥事というのか。事故とは言わないのか。
- 事故は不祥事の次の段階という認識。不祥事はすべて含むという捉え。
- 福祉では虐待と言っている。虐待防止という名前で全く同じような内容で行っている。年に何回か委員会をやる義務がある。報告義務などもある。判断するのは施設側ではなく、市（行政）ということ。疑われるものはすべて報告。事故も以前は大きなものだけ報告だったが、病院に行ったらすべて報告となった。車をガードレールにこすっても報告。
- 学校ではヒヤリハットはどんなことがあるのか？どんなことがどのくらいの件数なのかなど、どこかのタイミングで我々が見ておいた方がよいのかと思う。
- 保護者からの提出物を受け取った際の、係の教員へ渡し忘れ。ケガでの確認不足など。すべてを書いているわけではないが、アンテナの高さが課題と感じている。
- コンプライアンス違反の報告窓口はあるか。会社では、匿名で伝えられるシステムはあるが、学校ではあるか。
- 明確に示しては不在が、管理職へという流れはある。メンタルヘルスの窓口もある。
- 県にはないか。
- 内容によるが、教員が委員会へ直接言いたいということを伝える手段はある。
- 窓口はあるべき。上司と関係ないところで、防止するためにも重要。学校のヒヤリハット報告の件数だけでもここで出してもらえるとよい。ブラックの状況、通報制度の確立があった方がよいのではないか。
- 不祥事には幅がある。触法行為がどこまでか知っておくことが必要。そこらへんをうまく伝えて知ることが大切。ヒヤリハット、アクシデント報告は、周りがどうしたかが重要。それを確認できるとよい。たとえば、個人情報持ち帰る時に気が付かなかったのか。その時まわりがどうしていたか。普段からそんな話題がなかったのか。
- 1 回目の報告書と、1 か月後にその対策はどうだったかという 2 回目の報告、共有できてはいる。
- その時まわりはどうだったか書式に書いてあるといい。ケガをさせてしまったときに、まわりの先生たちはケガをするかもしれないと気が付かなかったのか、の観点があるとよい。

- 当事者はもちろんだが、そのときの周囲はどうだったかということも報告書に取り入れてやっていく。
- ヒヤリハット、アクシデントはまわりの責任ということもできる。
- 出すことのハードルがあまり高くないといい。出すことでアクシデントが減るといいので、出したことでのペナルティのような形にならないように。言い合える職場になるように。
- 基本的には職員打合せで報告して共有はしている。

## 6 学校評価部会（中間報告・来年度の目標について）

### 〈副校長・校長より報告〉

- 学校評価のアンケートは大変ではないか。やめることはできないのか。
- 県全体でやっている。経年でデータを取る必要があり項目もほぼ同じでやることになる。
- 紙で実施か。
- 今年度はデータでの入力とする予定。回答率のアップに向けてはその方がよいと考えている。保護者の方からは、参考になるありがたいご意見をいただけるので、アンケートは実施していきたい。
- 二次元コードはとても効果がある。大学では紙で示しても、読んでない、聞いてない。二次元バーコードを目の前に示すと、自動的にやる。保護者の方にも効果的だろう。
- 中間評価よいところの報告ということではあるが、まずかったなーというところはあるか。
- 行事スタンダード作成が遅いと思う。ギアを入れ直してまとめていきたい。
- サポートシステムはいいシステムだとは思いますが、爆発的な動きではない。教員の学部間交流も行っているが、同性介助の部分で体制的に難しいという状況もある。もっと活発にしたい。
- 進路 PTA 座談会を数年ぶりに復活させる。卒業生の保護者に話していただく企画があるが、話して下さる保護者を見つけにくくなっている。
- 情報教育の知識の差が学年での取り組みで明らかに出ています。地道に研修を積み重ねていって、同じようにできるようにしていきたいというのが目標。会計システムのスリム化をしたが、なかなか浸透が難しい状況。修正を何度も依頼することがあり、半年かかってようやく浸透したか。
- ICT は先生方だけで勉強するのではなく、外部講師の活用もありではないか、基礎的な話とか。こういうことができないかななどのアイデアをぶつけられる人がいるとよいか。
- 外部講師の活用はありだろうと思う。
- 情報担当者が本校と両分教室にいて、その連絡協議会などで情報を共有はしている。
- 進路のターゲットは小学部の親御さんだろう。
- 雇用部会からそういう要請が上がっている。センター的機能を果たしてもらうための取り組みを来年度お願いしたいという要請がある。『企業と語ろう』の主力は高等部から、だんだんと中学部、小学部へとスライドさせたい。保護者の方々にいかにわかっていただくかが課題。
- 高校では遅いということか。
- 先生方からもそういう意見が出ていて、新卒で就労する就職率が神奈川県は落ちている。コロナで落ちて、まだ復帰していない。インクルーシブ校などの取り組みはあるが、3年で必ずしも就労しなくてもいいのではという空気がある。進学という要素も増えている事実ではあるが。やはり就労できる人はできるだけ早くしてもらいたいという話もある。雇用率もあるが。センター的機能を果たしてもらいたい。
- 小学部からというところで、具体的には4月に小・中学部で進路学習会を実施しているが、年間通してのプログラムはないので考えていきたい。
- 高津支援学校の取組みはいい。小学部を対象として考えているのはいいこと。
- 学校としては、現状高等部を中心とした取組みにはなっているが、PTA 主催の進路見学会も全学部の保護者を対象に行っていて、特に小中学部の保護者の受けがいい。

見学をしたことで、実際の学習の内容が進路先にどうつながるかということがわかったという感想もあった。今後も継続して取り組んでいきたい。

●高等部生徒による読み聞かせや HP の情報発信もいい。

●地域等との協働で起震車がきたのか。

○たかつロータリークラブさんと高津消防署との共同のような形で実施した。煙体験や水消火器体験などをやって、防災教室として取り組んだ。

●子どもが体験できたのか。

○体験できた。

●体験が大事と思っているのでよかった。

●たかつの教育内容系統表や行事のスタンダードの作成がいい。ものすごくよいこと。前回も言ったが、なぜ行事をするのか、同じ場所に行くけれども、ねらいがちがうのがわかるということがわかる。たかつ教育内容系統表は児童生徒の一挙手一投足にちゃんと課題があって、そこは確認ということが見えてくるのがよい。作って活用してもらいたい。

●目標で何か新しいものがあるか。

○年度の初めに掲示したもので、そこからの追加はない。

## 7 協議・学校運営の承認

承認いただく

## 8 学校長あいさつ

学習発表会を見ていただいてありがとうございます。小中高と発達段階が見えていてよかったと思います。今日はいろいろなご意見をいただいたので、まずは後半で取組んでいくことと、課題を踏まえて来年度に向けて考えてまいります。次回は来年度の目標のご検討をお願いします。本日はありがとうございました。

## 9 事務連絡

### 【配付資料】

- ・令和6年度 第3回たかつコミュニティスクール 開催要項
- ・資料1 情報教育の取組みについて
- ・資料2 不祥事防止の取組みについて
- ・資料3 令和6年度学校評価報告書（目標設定）
- ・資料4 令和6年度学校評価（中間評価）
- ・資料5 令和7年度学校目標
- ・学習発表会プログラム
- ・学校だより「スマイルのたね」第78号、第79号